

ゴマンとある漢字

増え続ける漢字

小宮山博史

● 私たちが最初に漢字を習うのは小学校の国語の授業です。小学校学習指導要領の国語には学年別漢字配当表があり、第一学年八〇字、第二学年一六〇字、第三学年二〇〇字、第四学年二〇〇字、第五学年一八五字、第六学年一八一字と各学年で学ぶ漢字が掲げられています。総計で一、〇〇六字が小学校で習う漢字の数です。

たくさんあることを「ゴマンとある」といいますが、「五万」と書くのでしょうか。日本を代表する漢和辞典である諸橋轍次さんの『大漢和辞典』^{☆註二}の見出し字の数はほぼ五万字ですから、「ゴマンとある」にぴったりです。ここから出た言葉だとは思いますが、この数にはため息が出ますね。いったい漢字は何字あるのでしょうか。ご存知の方がいらっしゃれば是非教えてください。と思いますが、きっと「何字だ」ということはできないのではないのでしょうか。それは閉ざされた体系であるラテンアルファベッ

☆註二……大漢和辞典 諸橋轍次先生の漢和辞典。大修館書店と出版契約を交わしたのは昭和二（一九二七）年で、昭和一八（一九四三）年に第一巻（一、一五五頁、文字番号一〜一、四四四）まで）が活版印刷で刊行されたが、昭和二〇年二月二五日の戦災で印刷中の第二巻と組み置き原稿と資料一切を消失し、出版は頓挫。戦後戦災を免れた校正刷りをもとに再出版をはかる。組版は写真植字機研究所（現写真）の石井茂吉に依頼した。写真による第一巻は昭和三〇（一九五五）年一月三日、最終巻である第一三巻は昭和三五（一九六〇）年五月二五日に刊行された。最初の契約から三三年目のことであった。

トと違って、開かれた体系である漢字はどんどん増えているのが実情だからです。

●一応の目安を示した最初のもものが、昭和二一（一九四六）年十一月一六日の内閣告示・同訓令で公布された「当用漢字表」でしょう。これは昭和一七年六月の「標準漢字表」の常用漢字一、一三四字を基本として加除をおこな

漢字っていったい何字あればいいのでしょうか

い一、二九五字の新漢字表（常用漢字表案です）をまとめたのですが、どうも日常使うには少ないしまった児童が習うには多すぎるということを決まりませんでした。そこでこの案に各分野に必要な漢字を加えた一、八五〇字としたものを「当用漢字表」としました。「まえがき」の第一項ではこの表は「法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したもの」であり、「使用上の注意事項」の第一項には「この表の漢字で書きあらわせないことは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする」とありますので、けっこうきつい規制がかかっていることがわかります。

「当用」とは「日常生活上さしあたって必要なもの」「当座のもの」という意味で使われたようです。

ここに示された漢字を明朝体・ゴシック体に適用するとき厳しい字体の制限がつけました。「当用漢字字体表」^{☆註三・★図一五}がこれです。ほんとうは字体はもっと緩くあるべきですがんじがらめにするのはいいことではありません。字体

☆註三……当用漢字字体表 当用漢字一、八五〇字について字体の標準を定めたもので、昭和二四（一九四九）年四月二八日の内閣告示第一号・同訓令第一号で公布（「使用上の注意事項」の第一項は「この表の字体は、活字字体のもとになる形であるから、これを、みんちよう体、ゴシック体その他に適用するものとする」とあり、活字設計が大きな制約を受けることになった。「字体表」は小さいサイズのペン書きで、細部の統一も不十分のうえ印刷も悪く、活字業界・新聞社に混乱をまきおこした。

11

111

10

11

補親託詠誘諸譜豚貴資贈跡軟弁迷
 裕規討評誓諭証豆貨賄購距軒辛述
 裏見計詔認論謹谷賈賀賦趣軍轄迫
 裁覆訂詐誌請謠讓貢賈賈越車輪返
 被要言診誇談謝交財費壳超身輪近
 袋西觸訴詳調講讀負貸賢起躍輩迎
 哀襲解該課謙管貞買賈賈走赴踐輝迅
 衰複角設話說騰護貝貴賞走踏輕込
 表製觀訪詰誤謁議予貳賜赦踊載農
 衣裸覽訟詩誠謀詆豪貯賓赤跳較辱
 衡裝覺記試語諾警象責賤贊路軸辞

一五

馬高鷄齊
 香休鳴鼻
 首髓鳥鼓
 館骨鯨党
 余馭鮮點
 餓驚魚默
 養駿魔黑
 飾驅魅黃
 飽駭魂麻
 飼騰鬼麥
 飯騎西麗齡
 飲駐髮鹽齒

一七

終組結絕絞絡給統糸絹經緯
 維綱縛鼎繼統織欠翁翌習翼老考者
 繭綠群義羽聖聞声職聽肅肉肖
 美着耕耗耳聖聞声職聽肅肉肖
 耐肝肥肩肪肯育肺胃背胎胞胴
 胸能脂脅脈脚脱脹腐腕腦臍至
 腸腹膚膜膨胆舌舍舖舞花芳芽苗
 致台與艦良色芋芝荷荳蒸蓄薄薦
 舶船艇艦良色芋芝荷荳蒸蓄薄薦
 若苦英茂茶草荒著處行衆
 菓菜華万落葉藩血
 薪薰蔵芸蚕
 蚊融虫蚕

一四

追退送逃逆透逐途通速造連
 逮週進逸遂遇遊運遍過道達
 違通遠邇適遭遲郡郭醜醫
 還邇邦邪邸郊郎郡郭醜醫
 鄉配酒酢酬酩釐針鈍鈴鉛銀
 釀糗里重野量金針鈍鈴鉛銀
 銃銅銃銘銳鋼録鍾錠錢錯鍊
 鍛鎖鎮鏡鐘鐵鑄鑑鉞長門閉
 開閑問閣閱閱陰陳陵陶陷陸隸
 陞院陣除陪陰陳陵陶陷陸隸
 隆隊階隔際障隣隨險隱隸隸
 雄雅集雇雌双雜離難雨青頌
 零雷電需震霜霧露靈預頌
 面革音韻響頂項順風顯
 題額顏願類顧顯顯

一六

つづいて昭和五六（一九八一）年一、九四五字の「常用漢字表」が作成されました。当座というにはずいぶん時間がかかったと思いますが、当用漢字表公布から三五年目のことでした。同年三月の国語審議会答申の前文にある「常用漢字表の性格」には次のように書かれています。すこし引用してみましよう。

「常用漢字表は、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安となることを目指した。

常用漢字表は、現代の一般の社会生活で用いるものであって、科学・技術・芸術等の各種専門分野や個々人の漢字使用にまで立ち入ろうとするものではなく、従来の文献などに用いられている漢字を否定しようにとするものでもない。また、地名・人名などの固有名詞の用いられる漢字を対象とするものではない。

なお、ここに言う一般の社会生活における漢字使用とは、義務教育における学習を終えた後、ある程度実社会や学校での生活を経た人々を対象として考えたものである。

常用漢字表は、上述のように一般の社会生活における漢字使用の目安となることを目指すものであるから、表に掲げられた漢字だけを用いて文章を書かなければならないという制限的なものではなく、運用に当たって、個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるもの

である。

（中略）しかし、一般の社会生活において、相互の伝達や理解を円滑にするためには、できるだけこの表に従った漢字使用が期待される」

いかがです。当用漢字表の厳しい制約はずっと後退したことがわかります。あくまで「目安」で、この言葉を二回も使っていますし、漢字使用の制限ではなく「期待」と言っています。この文章の下に「注」があり、表を無視して漢字を好き勝手に使ってよいというのではなく、努力目標として尊重しましょう。この表をもとに独自の漢字使用の取り決めを作ったらいかがでしょうかと書いてあります。

私個人は文章を書くとき、できるだけ漢字の使用を少なくしたいという思いがあります。でも第一回、第二回そしてこの回も漢字の使用が多いかもしれません。では常用漢字一、九四五字はどのくらいの頻度で使われているのでしょうか。

ちよつと面白い調査報告書があります。凸版印刷と読売新聞での『漢字出現頻度数調査（二）』なのですが、この調査の本来の目的は、書籍で使われている表外漢字（常用漢字以外）の字種と字体の確認、そして常用漢字字体に準じた略字体が表外漢字にどの程度影響を与えているかの確認という字体調査なのですが、私が興味を持ったのは報告書にある使用頻度表です。

●ここでは第一部の「辞典類、単行本、月刊誌、古典類」

を見てみましょう。使用した書籍の合計は三八五冊で、

漢字総数は三三、三〇一、九四三字という膨大ですが、

文字種は八、四七四字にすぎません（第二部は月刊誌四誌四

八冊での調査で、漢字総数は三、五四一、一二〇字）。

凸版印刷株式会社がおこなった

調査は二種類あります

ちなみに使用頻度第一位は「一」、第八、四七四位は「邊」で、私の好きな「飲」「酒」はそれぞれ五三一一位、六八八位にランクされています。

常用漢字一、九四五字のほとんどは頻度順位三、〇〇〇位以内に入り、
三、〇〇〇位以降に出現する常用漢字は一四字にすぎません。^{☆註二四}第一位から

常用漢字が続き、JIS^{☆註二五}第一水準の漢字が最初に出現するのは第五五四位の「岡」、第二水準の漢字は「籠」の一、三三一一位が最初です。

第一位の「一」から第三、〇〇〇位の「祁」までの漢字で、日本語の文章に出現する漢字の九九・五五三パーセントを占めます。ということは残り〇・四四七パーセントをカバーするために五、四七四字の漢字が必要になるのです。文章を九九・九パーセントをカバーするには第四、二一七位の「晁」までが必要で、残り〇・一パーセントのために四、二五七字を用意しなければならぬことになります。この使用頻度調査の文字数が八、四七四字ですからほぼ半分に相当する漢字がこの〇・一パーセント用なのです。話がちょっとそれますが、第一、〇〇〇位の「伏」までで八八・四三五パーセント、第二、〇〇〇位の「某」までで九七・九〇四パーセントを組むことができます。

☆註二四……凸版印刷調査で使用頻度三、〇〇〇位以降に出現する常用漢字一四字は「効・惰・膳・虞・謁・厘・朕・憾・銃・通・迭・璽・勺・頒」。「効」は第三、〇六〇位、「頒」は第四、二七二位である。三、〇〇〇位以内の最後の漢字は「儉」で第二、九二七位。

☆註二五……JIS X 0208:1997「7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合」では、一般日本語表記用漢字集合を第一水準とし、九六五字、地名人名を含む個別分野用漢字を第二水準とし、三、三九〇字、漢字合計六、三三五字。
JIS X 0213:2000「7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化拡張漢字集合」では、第三水準漢字一、二四九字、第四水準漢字二、四三六字で、漢字合計三、六八五字。

●調査期間は平成一一年七月一日から八月三十一日で、東京本社と中部本社の最終朝刊と夕刊紙面でテレビ・ラジオ・広告面は除いています。出現した総字種は四、五四六字で凸版印刷調査の字種にくらべて約四、〇〇〇字も少ないのは、できるだけ漢字数を抑えて記事を書いているからでしょう。第一位は「日」で、第四、五四六位は「齣」です。第一、〇〇〇位の「滝」までで九三・三六一四〇三パーセントを、第二、〇〇〇位「峯」までで九九・五八六四三二一パーセント、第三、〇〇〇位「胃」までで九九・九五六七一七パーセントをカバーしています。九九・九パーセントをカバーするには第二、六〇四位の「址」でよいのですから、凸版印刷の調査書籍と新聞ではすいぶん違うことがわかります。残り〇・一パーセントのために用意されている漢字は凸版印刷調査の約半分の一、九六〇字です。

では読売新聞の調査ではどうか

必要漢字数の算出は活字書体をデザインするときはどうしても必要になります。現在はJISに準拠して漢字セットを構成するか、Adobe-Japan 1.5に倣うかどちらかだと思えますが、こういう規範となりうるものがなかった時代はどうしていたのでしょうか。何に準拠していたのかぜひ知りたいところです。

私は書体デザインをリョービ印刷機販売株式会社（現リョービイマ）のチーフデザイナーであった島野猛さんに教わり、写植書体のデザインもさせていただきましたが、そのときの写植文字盤の漢字数はメインプレート一級六九八字、二級二、二五〇字、サブプレート三級一、四二六字の合計四、三七四字でした。凸版印刷の使用頻度調査とは字種は違いますが字種数だけで

☆註二六……Adobe-Japan1.5 二〇〇二年九月にアドビシステムズ社が策定した二〇三・一七グリフのグリフセットの規格。アップルコンピュータ社が策定したA P G S (Apple Publishing Glyph Set) が元になっている。商用印刷物で必要とされる大量の漢字・非漢字を含むほか、JIS第三・第四水準漢字や表外漢字字体表字形をフルサポートする。二〇三・一七グリフのうち漢字が約一二、七〇〇グリフを占め、残りが仮名・欧文・約物・記号などの非漢字である。Mac OS Xでは、Adobe-Japan1.5に対応した五書体のヒラギノProフォントが標準搭載されている。（この註は大日本スクリーン製造株式会社による）

☆註二七……写真植字機文字配列表 一九七二年印刷「リョービ写真植字機文字配列表」では、メインプレートには漢字一級六九八字、二級二、二五〇字、ひらがなカタカナ一五〇字、促音四九字、欧文五二五字、約物一〇八字、和数字二一五字、洋数字三〇字で三、三四八字。サブプレート漢字三級一、四二六字。総数四、七七四字。

みれば使用漢字の九九・九パーセントは組むことができますし、ときに写植文字盤に無い字が出たとしても写植のオペレーターは偏と旁あるいは冠と脚を切り貼りして作字して間に合わせていましたので、印刷物に使う普通の文章を組むのであればこの字種数でべつに問題はなかったのでしょうか。

●ちょっと調べてみました。現在では金属活字で印刷を行っているところは数えるほどしかありませんが、そのなかでもっとも元気よく稼働している印刷会社として長野市の葛友印刷をあげることができます。この会社の所有活字母型一覧である『活字綜緝』^(一九九四年改訂版)では、本文用として八ポイント一七、三二一字、九ポイント一六、一六八字、一〇ポイント一七、二〇一字を用意してあります。この三サイズが飛び抜けて多く、あとは多くても四、〇〇〇字どまりですので、これは特殊な例だと思えます。印刷会社の保有字種はなかなかわかりませんが（印刷会社はべつに自分のと、活字鋳造と販売を行う会社が出す総数見本帳がほぼ必要な字種数を示していると考えてもよいかもしれません）。

金属活字ではどの程度文字種を用意していたのでしょうか

文化庁から出た『明朝体活字字形一覧——一八二〇年～一九四六年』^{★図一六}は二三種類の総数見本帳に掲載されている漢字を、ほぼ時代順に、同一字種を一行にならべて字形の異同が一目で分かるようにしたのですが、ここに使われた総数見本帳の字数は最大で一〇、七〇八字（四号明朝、一九一四年）、最少は初号（角寸法一四・七六ミリ）の二、四一一字です。本文用として使われ

★図一六……明朝体活字字形一覧——一八二〇年～一九四六年 第二期国語審議会の常用漢字以外の漢字の字種を検討するための資料として、平成二一（一九九九年）文化庁文化語部国語課が刊行（制作協力佐藤タイポグラフィ研究所）。一八二〇年刊行のロバート・モリソン著『五車韻府』から昭和二一（一九四六年）年朝日新聞社刊『新聞活字用標準漢字の研究』まで、二三種類の明朝体総数見本帳を使って漢字字種の異同を一目で分かるようにしたもの。収録漢字総数一七三、三四五字。該当字には『康熙字典』道光版と『大漢和辞典』の見出し字を参考として掲載。【四六～四七頁参照】

[illegible]

[illegible]

る五号は三種類ありますが、それぞれ八、八二四字、九、三六八字、九、六八七字となっています。おおざっぱに言えば、金属活字時代では一般的な必要字種数は九、〇〇〇字から一〇、〇〇〇字で、大きいサイズの活字では三、〇〇〇字から六、〇〇〇字の間というところでしょうか。

●私が知っているのはわずかに二例にすぎませんが、^{☆註二八}ここでは日本

の漢字活字数に大きく影響を与えたと思われるウイリアム・ギャン

ブルが行った調査を見てみましょう。

ギャンブルはこの連載の第一回目に登場した北米長老教会印刷所の印刷責任者です。北米長老会印刷所は一八四四年一月（^{公式記録のひとつは}二月としています）二三日「華英校書房」という名前でマカオで開設されました。翌四五年七月一日寧波に移り「華花聖經書房」と名前を変えます。ギャンブルは一八五八年一〇月印刷所の責任者としてここに赴任しました。彼を宣教師とする説もありますが、宣教師ではなく印刷技術者が正しい。赴任早々、彼は二人の中国入学者をそれぞれ二年間雇い、漢字使用頻度調査を始めます。ギャンブルは言います。

「中国で金属活字が使われるようになってからまだ日も浅く、この特殊な言語が一般的な文献に使用される字種の使用頻度調査はほとんど

漢字活字をデザインする目的で

使用頻度調査を行った例があるのでしょいか

☆註二八……ギャンブルの使用頻度調査の前にロンドン伝道会のサミュエル・ダイアが行ったものがある。内容の異なる一四種の書籍をサンプルとして文字種と出現頻度を調べた。出現字種は三、二四〇字で、そのうちの二、二〇〇字が頻繁に使われており、数百字は稀にしか使われないことを明らかにした。この調査報告は一八三四年に『重校幾書作印集字』という書名で刊行された。

されていない」

「以前からある活字の配列をある程度改良し、康熙字典☆註二九に含まれる四〇、九一九字のうち何字が通常使われるのか、とりわけ伝道にたずさわる人々が使用、発行した著作物に使用されているかをつきとめる目的で、我々の印刷した聖書と他の二七冊の出版物を含む、合計約一三〇万字におよぶ八ツ折判四、一六六頁の調査を行った」

「第一のリストには、上記の書籍で使用されている文字がすべて含まれているが、合計五、一五〇字にすぎない。しかし、これらの文字の右に数字で示してある使用頻度を合計すると一、一六六、三三五字になり、前段落の記述と一致する。さまざまな理由から、ロンドン伝道会のフォントリストに含まれている約八五〇字が追加されたが、それらの八五〇字は調査対象になった書籍には使われていないので、五、一五〇字のリストには入っていない」

「したがって、我々のリストの文字数は六、〇〇〇まで増加した」★四一七

五万におよぶ漢字の中から印刷に必要な漢字を割り出して鑄造活字を作り、それを文選工が効率よく採字できるような活字ケースへ配置をするということは、少数しかできない木版印刷や木活字による印刷（家内制手工業）とは異なっており、経済効率を優先し大量生産を目的とする近代的産業としての印刷を目指していることがわかります。しかしギャンブルの調査は宗教書をサンプルとしたことで、一般の書籍にはあまり出現しない漢字が頻度順位の上位にくるという欠点があったために、汎用性という面では問題を

☆註二九……康熙字典 清の康熙五五（一七一六）年に刊行された漢字字書『説文解字』や『玉篇』をもとにして歴代の字書を集成したもの『広辞苑』にある。収録字数は四七、〇三五字だが、本文の下に記す古文を加えると四九、〇三〇字になる。道光一一（一八三二）年に校正・復刻。

残しました。そのような問題もあつたからでしよるか一書体の漢字数は後に六、六六四字にまで増加していきます。

一	6423	丨		ノ		乙	3	了	77
七	1914	丫	2	乃	3433	九	931	予	1185
丁	151	个	3308	父	5	也	7045	事	3102
上	4874	中	19	久	321	乞	47		
下	1690	丰	8	义	4	乳	151		
丈	3466	串		么	11	乾	48		
丑	211			之	42068	亂	220		
不	12568			乍	5				
世	2581			乎	2882				
且	1873			乏	288				
不	25			乖	15				
丘	7			乘	270				
丙	1								
丐	10								
丢	32								
丞									
並	285								

★図一七……ウィリアム・キャンブルの漢字使用頻度調査結果 活字制作と活字ケースへの配置の基礎データとして必要漢字字種とその使用頻度を調査したもの。一八五九年から二年をかけて調査をおこなった。調査報告書 *Two lists of selected characters, containing all in The Bible and twenty-seven other books, with introductory remarks* を一八六一年美華書館から刊行。一〇〇〇〇回以上出現する漢字は一三字で「不之人以其我於日爲爾者而耶」「耶」などは聖書や宗教冊子が調査のサンプルのため使用頻度が高くなった。

〔五〇〜五一頁〕

41	伸	146	佞	18
	伺	18	你	69
357	伽	139	佞	
	倅		佩	17
32	但	1110	佬	
297	佇	6	佯	45
59	佈	3	佳	51
4	位	696	併	25
1	低	48	使	4820
339	住	123	侃	55
156	佐	14	來	1841
84	佑	152	侈	30
98	何	8462	例	425
45	余	483	佻	
195	余		侍	205
4	佚	9	佻	
	佛	117	侏	2
2	作	1486	侏	
2099	伴	18	供	325
6	佃	4	侑	
21	佔	3	依	256
6	佗	4	佶	2

9	侖		1	例		1	倆		23	偷		僂		僧
2	侖		1	侖	201	1	倦		19	僂		僂		儉
1	侖		1	修	260	1	倒		25	俎		僂		儒
67	侖		67	俯	761	5	俎		1	倂		僂		儔
153	侖		153	俱	597	3	俎		4	倂		僂		儔
23	侖		23	俎	46	3	俎		41	倂		僂		儔
137	侖		137	倉	112	2	倂		29	倂		僂		儔
23	侖		23	倂	29	68	倂		91	倂		僂		儔
16	侖		16	倂	64	1	倂		593	倂		僂		儔
12	侖		12	倂	8	1	倂		6	倂		僂		儔
201	侖		201	倂	157	1	倂		2	倂		僂		儔
740	侖		740	倂	29	55	倂		28	倂		僂		儔
83	侖		83	倂	75	129	倂		67	倂		僂		儔
1826	侖		1826	倂	31	23	倂		1066	倂		僂		儔
88	侖		88	倂	38	144	倂		6	倂		僂		儔
442	侖		442	倂	133	715	倂		27	倂		僂		儔
153	侖		153	倂	3	15	倂		301	倂		僂		儔
3	侖		3	倂	2	49	倂		268	倂		僂		儔
2	侖		2	倂	1130	34	倂		57	倂		僂		儔
	侖			倂		417	倂		112	倂		僂		儔

ギャングルは明治二（一八六九）年十一月に近代西洋印刷術と活字製法を日本人に教えるため長崎に来ますが、そのとき舶載してきた活字の字種はたぶんこの六、六六四字程度ではなかったかと私は想像しています。このち日本の印刷会社・活字メーカーはこの字種をもとにして日本で使う漢字を追加し、あるいは削除しながら漢字セットを作っていたのでしょう。そしてその数は本文用ではほぼ一万字前後で推移してきたように思えてなりません。

漢字数はコンピュータ時代にはいつから急激に増加の傾向を見せています。いったい何字必要なのか想像するだけでも頭が痛くなります。もっとな少ない漢字数で文章が作れないかどうも思います。キーボードの変換機能を使うとどうしても漢字の使用頻度が多くなるようです。この文章もコンピュータを使って入力していますので漢字が多いかもしれません。ぜひぶん前ですが漢字を五〇〇字に制限したらどうかという提案がカナモジカイから出されたことを思い出しました。五〇〇字で良いかどうかは別としてできるだけ少ない漢字で文章を綴りたいと思います。『暮しの手帖』の編集長を長く務めた花森安治さんの言葉であったと思いますが、ひらがなでわかるどころはひらがなで、ひらがなでわからないところは漢字を使うというのがありました。これはとても正しいことだと思えます。

◎組版仕様

書体＝ヒラギノ明朝 Std W4（漢字・欧文・アラビア数字）＋築地活文舎五号仮名（仮名・約物、〔日本の活字書体名作精選〕より）
見出し＝ナイズ：60 級／本文＝ナイズ：16 級 字送り：20 隣、行送り：30 隣、1 行：36 字詰め・22 行
脚註＝ナイズ：10 級 字送り：10 隣、行送り：13 隣、1 行：21 字詰め・50 行
◎発行＝大日本スクリーン製造株式会社 ◎デザイン＝組版＝向井裕一（gypn）

（2005.03.18）

☆註三〇……カナモジカイ 外交官僚の山下芳太郎の提案で大正九（一九二〇）年一月「仮名文字協会」改組して大正十一年「カナモジカイ」となった」が創設。カタカナを国字とする運動を展開。カタカナによる左横書きで、欧文のラインシステムを導入したタイプデザインが特長。デザイナーとして内閣印刷局の猿橋福太郎、松坂忠則、ミキ・イサムなどが活躍。

★図一八……カナモジカイのカタカナデザイン 図版は佐藤敬之輔著文字のデザインシリーズ第四巻『カタカナ』（丸善株式会社、一九六六年）所収。カナモジカイのカタカナデザインをまとめたものとして貴重な資料。現在にいたるまでこのような研究はない。佐藤はデザイナーであるミキ・イサムへの聞き取り調査をたびたびおこなっている。

なお佐藤敬之輔の著作から図版等を引用する場合は佐藤タイポグラフィ研究所にご連絡ください。
〔五三～五五頁参照〕

参考文献・関連書籍

- 『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局、一九八九年初版
- 『常用漢字表』大蔵省印刷局、一九九二年初版
- 『国語施策沿革資料二』漢字字体資料集（諸案集成二・研究資料）、文化庁文化語部国語課、一九九七年
- 漢字字体関係参考資料集『明朝体活字形一覽』——一九二〇年～一九四六年』文化庁文化語部国語課、一九九九年
- 漢字字体関係参考資料集『漢字出現頻度数調査（二）』文化庁文化語部国語課、二〇〇〇年
- 『漢字制限の基本的研究』岡崎常太郎著、松邑三松堂、一九三八年
- 文字のデザイン・シリーズ4『カタカナ』佐藤敬之輔著、丸善株式会社、一九六六年

1601 山下芳太郎設計 試作No. 1 12ボ
1914年(大正3)5月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカギヤ
ナサケニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミツアイウエオヤ

1602 山下設計 試作No. 2 14ボ
1916年(大正5)6月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテキヤオホカチ
ナサケニエユコロセヒモヨハム
ヘミ? □トリイッウヤユヨワン, . □

1606 スティックネー設計 タイプ用
1922年(大正11)5月

□ノメグダフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカギヤ
ナサケニエユコロセヒモヨハム
ヘミトリイ

1607 山下・スティックネー設計
タイプ用(アンダーウッド) 1922年(大正11)9-12月

□ノメグダフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカキヤ
ナサケニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミツアイウエオヤユヨ

1603 平尾善治設計 No. 2 14ボ
1920-21年(大正9-10)

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカ
キナサケニエユコロセヒモヨ
トリイハムヘミツアイウエオヤ

1604 猿橋福太郎設計 No. 2 [マツ] 12ボ
1921年(大正10)10月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカ
キナサケニエユコロセヒモヨ
トリイハムヘミツアイウエオヤ

1605 猿橋設計 No. 4 奥野正次郎 彫刻
1922年(大正11)1月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカキヤ
ナサケニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミツアイウエオヤユヨ

1608 猿橋設計 No. 16 [タケ] 5号
1923年(大正12)12月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカキヤ
ナサケニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミツアイウエオヤユヨ

1609 猿橋設計 No. 11 [ハギ] 5号
1924年(大正13)3月

□ノメクタフワウネレルシンソ
ツズヌマアラヲテチオホカキヤ
ナサケニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミツアイウエオヤユヨ

1610 大和幸作設計〔ホシ〕
設計 1925年(大正14)
活字製作 1927年(昭和2)3月

書物本式ノメクタフ ●活字 2号(実大)
ワウネレルシンソツスヌ
マアラヲテチオホカキナ
サケヤニエユコロトリイ
セヒモヨハムヘミヅウ

1611 マツザカ・タダノリ設計〔カモ〕
1927-28年(昭和2-3) ●活字 2号(実大)

書物本式ノメクタフ
ワウネレルシンソツスヌ ●活字 5号(実大)
マアラヲテチオホカキナ
サケヤニエユコロトリイ
セヒモヨハムヘミヅウ

書物本式ノメクタフ
ワウネレルシンソツスヌ
マアラヲテチオホカキナ
サケヤニエユコロトリイ
セヒモヨハムヘミヅウ

1613 マツザカ設計〔ツル〕
1930年(昭和5)10月 ●活字 2号(実大)

書物本ノメクタフワウネレル
シンソツスヌマアラヲテチオホカ
キナサケヤニエユコロトリイセヒ
モヨハムヘミヅウ ●活字 5号(実大)

書物本ノメクタフワウネレル
シンソツスヌマアラヲテチオホカ
キナサケヤニエユコロトリイセヒ
モヨハムヘミヅウ

1615 稲村俊二設計〔スマイル〕
1932年(昭和7)7月 ●活字 2号(実大)

書物本ノメクタフワウネレル
シンソツスヌマアラヲテチオホカ
キナサケヤニエユコロトリイセヒ
モヨハムヘミヅウ ●活字 9号(実大)

書物本ノメクタフワウネレル
シンソツスヌマアラヲテチオホカ
キナサケヤニエユコロトリイセヒ
モヨハムヘミヅウ

1614 マツザカ設計〔ハト〕 5号, 9号
1932年(昭和7)

ノメクタフワウネレルシンソツ
スヌマアラヲテチオホカキナ
サケヤニエユコロセヒモヨトリイ
ハムヘミヅウヨ, 。 ~ 活字

1612 マツザカ設計 タイプ用(ロイヤル) 原図
1928年(昭和3)8月〔カナノヒカリ80号から〕
現在のロイヤルは別の書体である。

ノメクタフワウネレルシンソ
ツスヌマアラヲテチオホカキナ
サケヤニエユコロセヒモヨトリ
イハムヘミヅウアイウエオヤユヨ

1619 ミキ・イサム設計〔クレハ〕
1960年(昭和35)

書物本ノメクタフワウ
ネレルシンソツスヌマア
ラヲテチオホカキナサケ
ヤニエユコロトリイセヒ
モヨハムヘミヅウザパピー
ツアイウエオヤユヨ, ,

1623 佐藤敬之輔設計 1961年(昭和36)

ノメクタフワウネレルシンソツ
スヌマアラヲテチオホカキナサケ
ヤニエユコロセヒモヨトリイハム

1622 佐藤敬之輔設計 1957年(昭和32)

ノメクタフワウネレルシンソツ
スヌマアラヲテチオホカキナサケヤ
ニエユコロトリイセヒモヨハムヘミ

1616 a ミキ・イサム設計〔アラタ〕 A型 3/4 モトヤ 1949年(昭和24)

ノ	メ	グ	タ	フ	ワ	ウ	ネ	レ	ル	シ
ン	ソ	ツ	ス	ヌ	マ	ア	ラ	ヲ	テ	チ
オ	ホ	カ	キ	ナ	サ	ケ	ヤ	ニ	エ	ユ
コ	ロ	トリ	イ	セ	ヒ	モ	ヨ	ハ	ム	
ヘ	ミ	チ	ザ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	ッ	ア
イ	ウ	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ	・	,	ー	〜

1621 ミキ・イサム設計 ハマ活字のタイプライター 1959年(昭和34)10月

ア	イ	ウ	エ	オ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
カ	キ	ク	ケ	コ	マ	ミ	ム	メ	モ
サ	シ	ス	セ	ソ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	ヲ
タ	チ	ツ	テ	ト	ラ	リ	ル	レ	ロ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ア	イ	ウ	エ	オ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヤ	ユ	ヨ	ッ	ン